

[← back](#)

「商標登録やネットマーケティングを通じて独立開業をサポートしたい」 弁理士 金原 正道

[プロフィールはこちら ↓](#)

Sanofi Waveでは、分野を問わず、常に挑戦を続けて新たなる波を生み出す人をご紹介します。第十一回は、今話題の商標登録の専門家である年間10万アクセスを誇るWEBサイト'商標登録ドットコム'を自ら設計・プロデュース、クリエイターや個人事業主へのコンサルティングなども行う異色の弁理士 金原正道氏のWAVEをお届けします。

～憧れは作家。そののち広告の‘業界人’に。～

>> システムや工学が専門というイメージの弁理士業ですが、意外にも十代の頃は作家志望だったそうですね。大学もフランス文学がご専攻だったとか。

中学の頃からフリー志向があって、一人で自由にやっていた作家には憧れました。太宰や北杜夫などの文庫本を一日一冊は読む本の虫だったな。もっとも、今も月30冊ぐらいは本を買っていますが、最近は仕事柄、実用書ばかりになっていますね。高校の頃は小説の投稿もしていました。だけど、興味の対象は文芸だけじゃない。もっと幼い頃は、天体や地質学なんかの大人が読む科学の本を読んでたし、就職の頃は、コピーライターや作詞家になりたかった。やりたいことって定期的に変わるんですよ、きっと。

>> - 初めのお仕事はイベントの企画だったそうですね。

音楽が好きだったので、音楽業界に近いイベント全般やノベルティを企画する仕事を十年やりました。横浜博覧会から企業ごとにホテルで行われる新製品発表会まで色々です。広告業界を目指したのは、やっぱり文章を書くのが得意だったから‘言葉’の職業ということで選んだんでしょうね。だけど、実際は司会や音響照明の手配や、台本書きまであらゆることをやりましたよ。楽しかったか？うーん、楽しかったけど、働く時間は長かったですね。大きなイベントになると何十日も泊り込むこともありましたから。最後の方は、サラリーマンでいることに自分の中で行き詰ってしまったので、資格を取ってフリーになろうと思いました。



～創作活動のもとになる著作権の仕事をしたくて、弁理士の道へ。～

>> 資格の中でも弁理士を目指したのはなぜですか。

普通、弁理士という7割が特許の仕事で、メーカーの研究職や工学部系の出身が多いですが、私の場合、自分が企画や表現をする立場から、クリエイターを守る方になるかと弁理士を目指しました。専門職をやるなら興味と近いところでやりました。商標は印税商売である作家やクリエイターにつながるでしょう。当時、弁理士試験は合格までに4～5年かかると言われていたところを企画会社の最後の頃から、勉強をはじめて3年半で合格しました。といっても、毎晩飲んでたから、勉強の場所は飲み屋のカウンターでしたけど(笑)。

>> 幼い頃のフリー志向を実現するまでには、試験合格後、もう少し時間が必要だったのですね。

そうそう、弁理士業は、特許事務所の事務員として一からスタートしていましたからね。特許事務は、それま

でやっていた企画の仕事とは180度違う業種です。ともかく書類が大量で、パソコンが導入された当初から、書類管理のためWINDOWSソフトを使いこなさなきゃいけなかった。文系出身の僕は、理系のことを一つくらい詳しくなっておいた方がいいなという意識があって、事務員として勤めた3年の間に、パソコンのことはめっちゃ詳しくなりました。勉強したというよりは、必要に迫られて慣れたという感じですが、99年頃には個人でホームページも作りました。「特許とは・・・」という基礎知識を公開するとか、弁理士試験を目指す受験生に向けた掲示板とか。そこで作った情報は、あとで今の事務所のオリジナルサイトを作るときに役に立ちました。



～見えない相手と結びつくインターネットが、 個人の‘やりたい’をバックアップする。～

>> いよいよ独立となるわけですが、世はベンチャーブームで同じ機運にのった仲間に恵まれたそうですが、

いつか独立しようとベンチャーの会合に顔を出していたら、ちょうどビジネスモデル特許がブームで、ネットやソフトウェアに詳しい弁理士が足りなかったためすぐ仕事の声がかかりました。大きな特許事務所からしてみれば、資料が揃わない、知名度が低いベンチャーや中小企業は、手間のかかる難しいクライアントなんです。それじゃ、私が引き受けるかと思いつき独立を決意しました。事務所の場所は当時のネットビジネスの中心、ビットバレーにこだわって渋谷区渋谷にしました(笑)。前職を4月に辞めて、早くもGWには開業準備をするスピードでしたが、事務用品を買いに宮益坂を降り下りしていた時は、本当に晴れ晴れした気持ちでした。だって初めて実現した自由ですから！



>> なるほど。でも独立してからはともかく忙しい日々だったそうですね。

特許の書類は一件当たり30ページ前後にもなるので、土日も含めて夜中まで仕事をしましたね。断片的な情報から、マーケットを想定して特許の範囲を策定していくので、想像力も使うし、難しい。「ワープロのカナを漢字に変換する」とか、たまごっちのように「動物を育てる」という概念までが特許になるというのは、やっている私自身新鮮でしたけど。ところが、ビジネスモデルはやっぱりバブルだという感じがしたので、本当にやりたかった業務に絞ろうと、商標へ仕事をシフトしました。こういう流れもラッキーでしたね。インターネットがなくちゃ、こんなにうまくいきません。

>> ご自身にとって、インターネットとはどんな存在ですか？

組織の上下関係や距離を飛び越えて、見えない相手と直接結びつく場所ですね。個人が仕事をするには画期的。私はネットをいかに仕事に使うかを超研究してきましたから(笑)。うちのホームページは商標分野ではNO1.のアクセスなので、商標登録の依頼があったクライアントから、「ついでにHPを作ってもらえませんか」という相談もあります。今、世の中が少しずつ変わってきていて、奥さんのネットショップがうまくいったから、旦那さんが会社を辞めて手伝う、といったケースが増えるなど、自分も何かできそう！と気づく人が増えて来ています。そういう個人のバックアップをしたいですね。うちにも事務員がいますが、副業OKというより、副業奨励をしています。将来的には、事務員一人で一つホームページを持って独立して出て行けるような形にしたい。作家やクリエイター、個人事業主など、これから世に出て行く人をプロデュース、サポートしていくことに興味があります。まあ、ひとつのことが成功すると次のことをやりたくなる性分で、商標登録のスキームが成功



したから、そろそろ他のことをやりたくなってるんですよ(笑)。

WAVE 語録

[ページのトップへ↑](#)

- ・中学の頃からフリー志向。一人でやっていく自由さに憧れていた。
- ・インターネットは、組織や距離を飛び越えて見えない相手と結びつく場所。
- ・クリエイターや個人事業主などこれから世に出て行く人をプロデュースしたい。

プロフィール

[ページのトップへ↑](#)

弁理士 金原正道

1964年目黒区生まれ。

・[金原商標特許事務所ホームページ](http://www.kanehara.com/)
<http://www.kanehara.com/>

< 経歴 >

- ・1987年3月
早稲田大学第一文学部
- ・1987年 - 1996年
株式会社ビッグショット
- ・1997年 - 2000年
藤本特許法律事務所
- ・1998年
弁理士試験合格、弁理士登録(登録番号11260)
- ・2000年5月
金原商標特許事務所設立(東京・渋谷)
- ・2000年10月
東京都渋谷区代官山に移転
- ・2003年12月
特定侵害訴訟代理業務試験合格
- ・2002 - 2003年
日本弁理士会研修所新人研修部委員
- ・2004年
日本弁理士会コンテンツ委員会委員
- ・2005年
日本弁理士会コンテンツ委員会委員・商標委員会委員

< 主な所属団体・役職等 >

日本弁理士会(コンテンツ委員会委員、商標委員会委員)
日本商標協会
日本知財学会
エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク
渋谷商工会議所

< 著書 >

「預貯金がおろせなくなる日 自己防衛完全マニュアル」あさ出版
「全図解 ビジネスモデル特許がわかる 経緯、しくみ、リスク、特許戦略を完全収録」あさ出版 共著